

第4回「子ども支援ネットワークづくり」推進教員研修会

講座①

12月27日(木)

やさしい日本語と WEB翻訳の活用

講師: 的場 仁(三重県人教事務局)

《参加者の感想から》

- このような視点を持つのと持たないのでは、外国籍の方と話すとき、全然違うなと思った。また、それは、外国籍の方に対してだけではなく、いろいろなすべてのことに通ずると思う。
- 昨年度末、私立高校に入学する生徒が入学案内の文書を持って、やって来ました。「制服の採寸」とか、外国につながる子どもたちには表現が難しかったようです。県立高校をはじめ、どこでも誰もが学校生活をしやすいように、それぞれの立場で良い方向に進めていかなければ、と思いました。



県内の高校に在籍する外国につながる生徒とともに「入学のしおり スペイン語版 ポルトガル語版」の制作に取り組んだ経験を通して、やさしい日本語づくり、WEB翻訳の活用のポイントについてお伝えしました。

講座②

12月27日(木)

地域での水平運動

講師: 榎田 誠さん(三重県人教専門委員)

《参加者の感想から》

- 今まで教科書の知識しかなかったので、部落差別の成り立ちのイメージがガラリと変わりました。元々は無理にそこに住まわされたのではなく、低位に見られていたのでもない知り、驚きました。大変分かりやすく、興味深いお話でした。
- 以前、上杉先生の話も聞きましたが、自分の不勉強でよく分からないところもありました。が、今日のお話、意識の部分などとてもよく分かりました。冬休み明けに、学校でも還流します。



部落(史)観の見直しが進んでいますが、県内に残る古文書にも、「豊かでたくましい」事実が記されています。この古文書から見える地域の部落史と、県内各地の水平運動について具体的に話していただきました。

講座③

12月28日(金)

人権教育の視点でつくる 特別支援教育

～私にも、フツウのクリスマス・お正月を～

講師: 米本 俊哉さん(北勢きらら学園)

《参加者の感想から》

- 私には施設に入っている叔父がいるのですが、今日のお話で、その叔父のことが頭に浮かびました。「朝起きて、そこが自分の家だったらどんなにいいか…」と話していました。義母(叔父の妹)と、ちょくちょく面会に行きますが、自分にはできることはもっとないだろうか…、と考えさせられます。「『わからない』でも『なんとかかかわりたい』がつながりをつくる」ということが心に残りました。今、特別支援学級にいるTさんとのコミュニケーションについても、あらためて考えるきっかけをもらいました。
- 私も、教師の「感性」「本質を見抜く力」「言葉にならない言葉をつかむ力」はとても大切と思っています。まだまだサビサビですが、磨いていきたいと思っています。



共に生きる社会をめざして、私たちはどう取り組んでいけるべきか。「重度重複障害者」の視点からお話をいただきました。講演内容の詳細は1月号(436号)に掲載してあります。ぜひご覧ください。

講座④

12月28日(金)

教室で語る人権小ネタ[総集編] plusものづくり

講師: 藤原 武(三重県人教事務局)

《参加者の感想から》

- 教室で子どもたちに話をするネタをたくさん聞かせていただきました。私のまわりにも、たくさんあるように感じます。子どもたちと一緒にこんな話してみたいな、と思いました。
- 分かりやすいお話で、でも日常生活の中で人権について考えるきっかけ、糸口となる話題がたくさんあるのだということに改めて気づかせていただきました。また、革工作も楽しく、子どもたちどうしなら、面白いお互いの発見ができそうだなと思いました。



人権の視点で見れば、私たちのくらしのあちこちに、様々な「ネタ」が転がっています。子どもたちと気軽に人権を語り合えるいくつかの「ネタ」を紹介した後、参加者全員で、革細工を行いました。